

# ふるさとの心

その1. 金峰山の周辺



ふるさとの心  
心のふるさと

心の中のふるさと

古庄 三男

鉄の音、機械の音、人ごみの中で、身も心もゆっくり安らぐことのない毎日。そんな生活を始めて、もう五年になる。その間、熊本へ帰ったのは三回きり。時たましか帰らないふるさとだが、私にとっては、かけがえない安らぎの場である。柔かい土を踏み、腕を大きく伸ばして、うまい空気を腹一杯吸うことができる。家の前の清らかな小川の流れ。鳥の鳴き声。野の草。夏の夜は、ウチワを手にホタルを追う。東を見れば、いつも変わらぬ阿蘇が間近にある。日常の束縛からとき放され、生き返る思いがするひとときである。

都会の人ごみの中に戻っても、私の生まれ育ったすばらしい環境と雄大な阿蘇の姿が思い出され、私に勇気と自信を与えてくれる。

ふるさとを離れて、初めて感じる「ふるさとの心」であろうか。

兵庫県相生市相生五二九二  
石川島播磨重工業勤務  
昭和四十三年・大津高校卒